

# 生活困窮…無料Wi-Fiが命綱

## スマホ停止 職探しできず「SOS」ネットから

「コロナ禍のなかで仕事や住まいを失い、料金が払えずスマートフォンが利用できなくなった人々が数多くいる。」「コンビニエンスストアやファストフード店などの無料Wi-Fiが、情報収集や連絡の命綱だ。」

「いま所持金が千円、無職、身分証なし、ホームレスです。今日か明日できたらどこかで死のうと思ってます。もし、死ぬ勇気が出なかったら頼らせて頂きたいです。また、携帯が止まっていてWi-Fiがある場所がないとメールやラインが出来ませんので、宜しくお願いします。」

「いま所持金が千円、無職、身分証なし、ホームレスです。」「月末、東京都内のインターネットカフェ。30歳の女性は、画面にひびが入ったスマホに打ち込んだ。「今日か明日できたらどこかで死のうと思ってます。」支援団体「SOS」を求め、メッセージ。手持ち金では、翌日のネットカフェの料金を払えず、居場所を失ってしまっている。「住む場所がない」などの検索ワードを次々と打ち込み、助けを求めた。料金を滞納でスマホはなくなり、前からの利用停止。通信はできず、携帯会社のデータ通信ではインターネット接続はできない。最後の命綱が、ネットカフェが提供する無料Wi-Fi。このWi-Fiが、生活保護利用でいのちを繋ぎ止めている。返信は、30分以内には届かない。緊急アクションの相談フォームだった。反貧困ネットワークなど、約40団体は連携する支援団体だ。

「緊急アクション」の相談フォームだった。反貧困ネットワークなど、約40団体は連携する支援団体だ。

無料Wi-Fiを頼りにスマートフォンから支援団体に送った「SOS」を、30歳女性が記者に見せてくれた。4月、東京都



炊き出し会場の一角で、「無料Wi-Fi」「スマホ充電」の支援を続ける佐々木大志郎さん＝4月、東京都豊島区

「SOS」が響かされた。予想外の反応の速さに、女性には動揺しながら返信した。「私より困っている方がたくさんいる。まずは私の申し訳ない気持ちでいいですよ。」「生きていくのが難しくなっています。生活保護という制度は知っていましたが、住所や身分証がない自分が受けられるのか、全くわかりませんでした。」福祉の窓口で一人で歩く勇気はなかったと振り返る。その日の夜、支援員として活動する小椋修平・足立反議会議員と会い、翌日に一緒に生活保護を申請。その後、困難者支援に取り組み「SOS」側は否定的だったという。

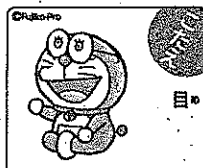
### 炊き出し 充電も支援

急速な社会のデジタル化を受け、支援も始まっている。「無料Wi-Fi」を使えます。「スマホ充電」もできます。「SOS」の東京ファンダは昨年10月から、利用者が急増している食料支援の会場で「無料Wi-Fi」を提供。翌11月からは週末の充電ができるコーナーも用意している。東京都豊島区の公園でNPO法人TENOHASHIが定期的に実施する炊き出しは、毎回10人前後がWi-Fiを利用。数人から充電の依頼がある。無料でスマホ充電ができた飲食店などが緊急事態宣言下で休業・時短となったり、長居ができないというコンセンサスが使用停止になったりするなど、住まいを失った人の充電場所が減っているという。

### 通信手段 保障を

支援を企画した同ファンダ

編集委員・清川卓史



「おんがなでたきた青い目玉のようなお守りだよ。悪魔を寄せた妖怪をばね返して、悪いところから身を守ってあげるお守りだよ。」